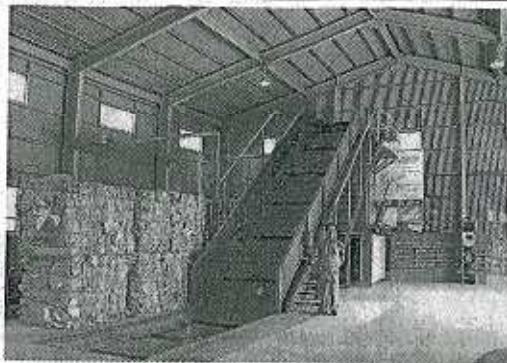


三功 段ボールR事業を開始 大型圧縮梱包機を新たに導入

一廃・産廃の収集運搬・中間処理を手掛ける三功(津市、片野宣之社長、☎059・255・5597)は5月、段ボールのリサイクル事業を開始した。第一リサイクルセンター内に1500トンの大型段ボール圧縮梱包機を設置し、計量機付き段ボール専用トラックを4台を新たに導入。設備投資額は計約8000万円に上る。今後、有価物の回収を強化していく考えだ。

新たに導入した段ボール圧縮梱包機



今回設置した大

型圧縮梱包機は、新實商店(愛知県岡崎市)が考案したオリジナルタイプ

の装置で海外製。処理能力は1時間当たり約6トで、機能と費用対効果の高さが特徴だ。現在、既存顧客のスーパーマーケットなどから出る段ボールを1日当たり15〜20回回収し、同機で処理、製紙原料としてリサイクルしている。同社はこれまで、生ごみや廃プラスチックのリサイクルループを積み重ね、スーパーから排出される廃棄物や資源物を、すべて自社で受け入れられる体制が整った(片野社長)としている。(関連記事2面)

三功 段ボールR事業を開始 資源物全て対応可能に

三功(津市、片野宣之社長、☎059・255・5597)は、段ボールリサイクル事業の開始により、廃棄物・資源物の多品目を一括して受け入れることが可能となった。すでに生ごみ、他、廃プラスチック類、缶・びんなどの資源物についてはリサイクルシステムの実績を確立しており、今後は総合的なリサイクル事業として展開し、さらなる施設の拡充と顧客への提案を進めていく。



新たに導入した計量器搭載トラック

同社は1970年、一廃収集運搬業の許可を津市と久居市(現・津市)から取得して開業。現在、一廃は三重県内の8市6町に許可区域を広げ、スーパーマーケットやホームセンターなど大手流通関係者をメインの顧客としている。産廃については三重、愛知、奈良、岐阜の4県が営業範囲となっている。食品リサイクル分野へは95年に進出した。その他の資源物については、97年に発泡スチロール溶融施設を導入。06年には第2リサイクルセンターを開設して、空きびん、空き缶、PETボトル粉砕設備、発泡スチロール溶融設備を整え、マルチリサイクルを可能とした。RPP製の造施設も備え、スーパーリサイクルも実施している。廃プラリサイクル事業では、97年から選別物の有価販売を開始。07年には自社施設で廃プラを破碎・洗浄・脱水・圧縮梱包して出荷、提携先の中国工場でごみ袋に再生して日本に戻し、排出元が購入するリサイクルループを構築した。新實商店(愛知県岡崎市)、西山商店(名古屋市中区)、輝クリーナー(愛知県豊橋市)と4社共同で取り組んでいる。今回、1500トンの大型圧縮梱包機と計量器付き専用トラックを導入し、段ボールの回収も始めたことで、総合的なリサイクルの手法が揃った。「将来的には家庭系ごみ収集業務への参入も視野に入れている」という。